

## 会社概要 (2019年9月30日現在)

### 商号

SGホールディングス株式会社  
(SG Holdings Co., Ltd.)

### 設立年月

2006年3月

### 本社所在地

京都市南区上鳥羽角田町68番地

### 資本金

11,882百万円

### グループ人員

従業員数 94,687名

うち、パートナー社員等  
(期中平均) 43,619名

### 事業内容

グループ経営戦略策定・管理並びに  
それらに附随する業務

## 株主メモ

### 証券コード

9143

### 事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

### 定時株主総会

毎事業年度終了後から3か月以内

### 株主確定基準日

毎年3月31日

### 剰余金の配当の基準日

期末配当 3月31日、中間配当 9月30日

### 株式の売買単位

100株

### 公告掲載方法

電子公告とします。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。電子公告は当社のホームページに記載しており、そのURLは次のとおりです。

<http://www.sg-hldgs.co.jp/finance/ir.html>

### 株主名簿管理人及び

### 特別口座の口座管理機関

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

### 連絡先・郵便物送付先

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

電話番号 0120-094-777(フリーダイヤル)

## Web サイトでも情報を開示しています



▶ <http://www.sg-hldgs.co.jp>



株主・投資家情報

当社のWebサイトでは、グループ企業の活動全般にわたる最新の情報をご提供しています。また、「株主・投資家情報」では、決算短信や決算説明会資料の掲載をはじめ、経営方針や経営戦略、各種お知らせなどを幅広く発信しています。財務情報や事業内容などについての詳細はWebサイトをご参照ください。

▶ <http://www.sg-hldgs.co.jp/finance>

※ 株式や配当についての情報は、「株主・投資家情報」の「株式について」からご覧いただけます。

## SGホールディングス株式会社

# 株主通信

第14期 中間報告 2019年4月1日～2019年9月30日



本号のキーワード

# 「SAGAWAの ロジスティクス」

▶ 詳細は **P.5-6** 特集

SGホールディングス株式会社



この印刷物のFSC®ラベルは、世界の森林資源の責任ある利用を保證します。

SGホールディングス株式会社

証券コード: 9143



## アジアを代表する 総合物流企業グループを 目指し進化し続けます

代表取締役会長

栗和田 栄一

代表取締役社長

荒木 秀夫



### 2020年3月期 連結業績予想

(億円)	2020年3月期	前年同期比
営業収益	11,850	106.0%
営業利益	750	106.6%
経常利益	800	107.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	470	108.1%
配当(円) 中間	22	—
期末	22	—

### ご挨拶

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

我が国を取り巻く国際環境は、米中通商問題を巡る緊張の高まりや、中国経済の減速、中東情勢の緊迫化を背景とした原油価格の上昇など、先行きを予見できない状況が続いています。一方、日本国内では、世界経済の不確実性が与える影響には引き続き留意をする必要があるものの、雇用情勢が着実に改善する中で個人消費の持ち直しも見られるなど、景気は緩やかに回復しています。

物流業界におきましては、近年急速に拡大しているeコマース市場は着実に成長し、宅配便に対する需要は増加しています。また、消費者の生活環境がますます多様化する中、荷主企業においては、流通経路の複雑化、高速化が一層進み、サプライチェーン全体の最適化が重要な課題になっています。

このような状況の下、SGホールディングスグループは、社会インフラを担う物流企業グループとして、常に安定した品質でサービスをご提供できるよう、日々改善に取り組んでいます。今後も、一層のスピード感を持って総合物流ソリュー

ションのさらなる進化とインフラ整備を行い、お客さまのニーズにお応えします。

### 上期業績と施策について

2020年3月期上期は、中期経営計画「Second Stage 2021」の初年度として、高付加価値サービスの提供と適正運賃収受の取り組みを継続しました。宅配便以外のあらゆる「運ぶ」を総合的にプロデュースする「TMS (Transportation Management System)※」をはじめとする、グループ横断の先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「GOAL®」によるソリューションの提供や、株式会社日立物流との「協創プロジェクト」のさらなる推進に注力しました。これらの取り組みにより、2020年3月期上期の業績は、連結営業収益が5,877億円(前年同期比8.3%増)、連結営業利益が371億円(前年同期比13.8%増)となりました。

デリバリー事業においては、大型トラックドライバー不足解消に向けた、セイノーホールディングス株式会社との長距離輸送に関わる共同運行トライアルの実施、「TMS」のさらなる利便性の向上を目的とした、CBcloud株式会社との資本・業

務提携等、企業の枠組みを超えた協力体制の構築に取り組みました。ロジスティクス事業においては、国内では通販事業者を対象にシェアリングプラットフォームの提供を始めています。海外では、エクスポランカが世界的に展開しているフレイトフォワーディング事業が拡大しております。

※ TMS: Transportation Management Systemの略称。当社グループの物流ネットワークを活用し、宅配便以外の付加価値サービスとして提供。

### 下期の施策と通期の見通しについて

2020年3月期下期は、引き続き「GOAL®」や協創プロジェクトによる高付加価値サービスの提供に注力します。提案領域を拡大し、お客さまの幅広いニーズに対応できる体制の強化を図ります。

2020年1月末には東京都江東区に国内最大級の大型物流施設「X<sup>エックス</sup> フロンティア」が竣工します。この施設は、上層に3PL※、国際物流、大型商材の物流を担うグループ会社が一層に入居します。竣工後、順次稼働を開始し、越境ECなどお客さまの高度なご要望に対し、調達からラストワンマイルまで一貫通貫でサービスを提供します。また、少子高齢化に伴う労働力不足や働き方改革に対応すべく、最新技術による省人化・生

産性向上を実現し、持続可能なサービスを提供します。次期以降は、下層において佐川急便の中継センターが稼働を開始し、宅配便のキャパシティ拡大を実現します。

2020年3月期通期の業績予想は、上期までの実績と動向を考慮し、見直しました。連結営業収益1兆1,850億円、連結営業利益750億円を見込んでいます。

※ 3PL: Third party logisticsの略称。荷主企業に代わって、最も効率的な物流戦略の企画立案や物流システムの構築の提案を行い、かつ、それを包括的に受託し遂行する事業

### 配当について

2020年3月期の中間配当金は1株当たり22円とさせていただきます。

期末配当予想は、好調な業績に鑑みて見直しを行いました。期末配当は22円、通期での配当合計額は44円を予定しています。

今後の配当政策は、引き続き配当性向30%を念頭に、財務バランスや将来の投資計画等を総合的に勘案しながら検討していきます。

株主の皆さまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

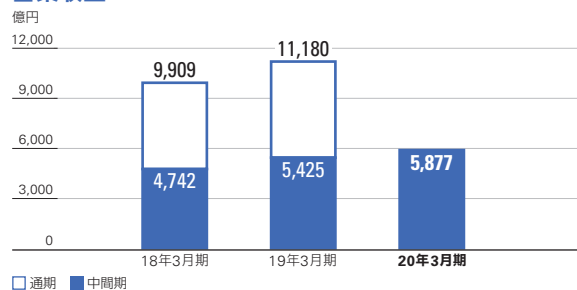


- ✓ 「GOAL®」による「TMS」などの高付加価値サービスの提供が好調に推移
- ✓ 適正運賃收受の取り組みの継続
- ✓ EC貨物の増加や消費税率引上げに伴う駆け込み需要等で取扱個数増加

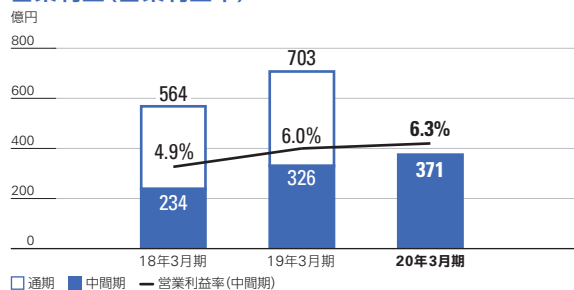
	2019年3月期 第2四半期 (2018.4.1~2018.9.30)	2020年3月期 第2四半期 (2019.4.1~2019.9.30)	前年同期比
営業収益	5,425 億円	5,877 億円	108.3%
営業利益(営業利益率)	326 億円(6.0%)	371 億円(6.3%)	113.8%
経常利益	339 億円	389 億円	114.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	191 億円	219 億円	114.8%

※ 2018年3月期より決算日を3月20日から3月31日に変更しています。P3、4の2018年3月期の業績は同期間(中間期:2017年4月1日から2017年9月30日、通期:2017年4月1日から2018年3月31日)の数値となっています。

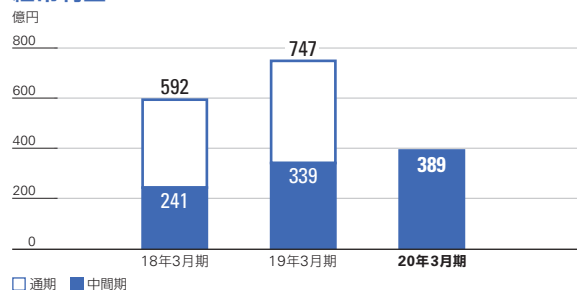
営業収益



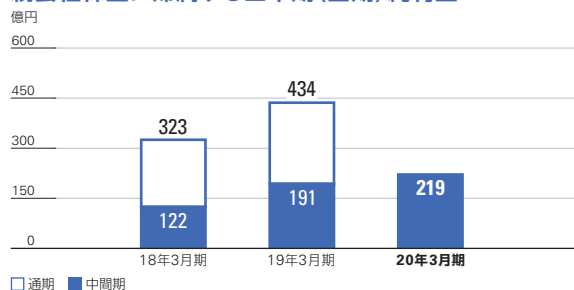
営業利益(営業利益率)



経常利益



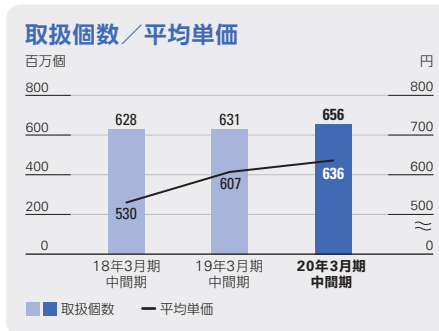
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



セグメント別事業概況

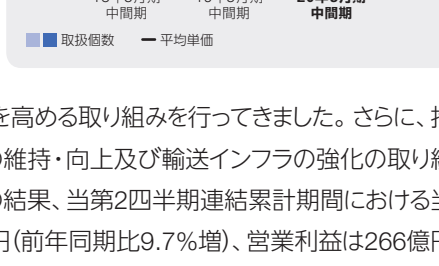
デリバリー事業

デリバリー事業におきましては、EC貨物の堅調な荷動きや消費税率引上げに伴う駆け込み需要等の影響により取扱数量が増加し、継続的な適正運賃收受の取り組みにより平均単価が上昇しました。また、「TMS」をはじめとする「GOAL®」による付加価値の高いソリューションの提供や、株式会社日立物流との提携効果を高める取り組みを行ってきました。さらに、持続的な成長を見据え、輸送品質の維持・向上及び輸送インフラの強化の取り組みを継続的に行ってきました。この結果、当第2四半期連結累計期間における当セグメントの営業収益は4,739億円(前年同期比9.7%増)、営業利益は266億円(同15.1%増)となりました。



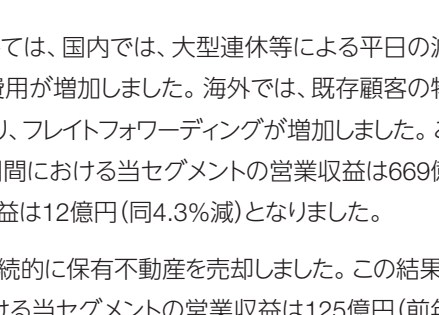
ロジスティクス事業

ロジスティクス事業におきましては、国内では、大型連休等による平日の減少や拠点の見直しの影響により費用が増加しました。海外では、既存顧客の物量増加及び新規顧客の獲得により、フレイトフォワーディングが増加しました。この結果、当第2四半期連結累計期間における当セグメントの営業収益は669億円(前年同期比3.3%増)、営業利益は12億円(同4.3%減)となりました。



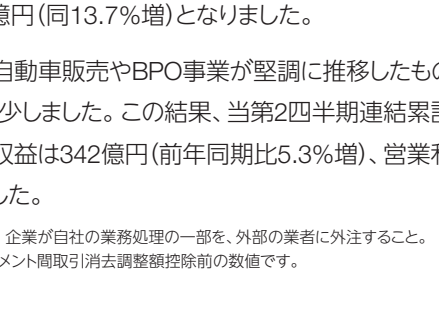
不動産事業

不動産事業におきましては、継続的に保有不動産を売却しました。この結果、当第2四半期連結累計期間における当セグメントの営業収益は125億円(前年同期比4.9%減)、営業利益は55億円(同13.7%増)となりました。



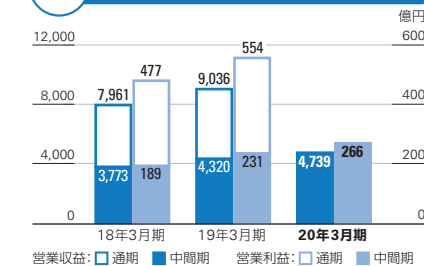
その他の事業

その他の事業におきましては、自動車販売やBPO事業が堅調に推移したものの、代金引換サービスの件数が減少しました。この結果、当第2四半期連結累計期間における当セグメントの営業収益は342億円(前年同期比5.3%増)、営業利益は30億円(同4.8%増)となりました。

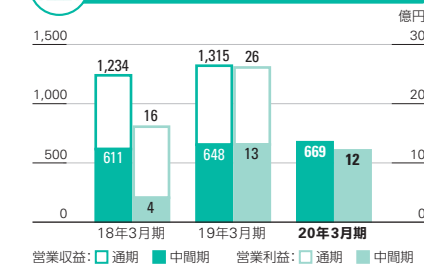


※ BPO: Business Process Outsourcingの略称。企業が自社の業務処理の一部を、外部の業者に外注すること。  
※ 各セグメントの営業利益は、全社費用及びセグメント間取引消去調整額控除前の数値です。

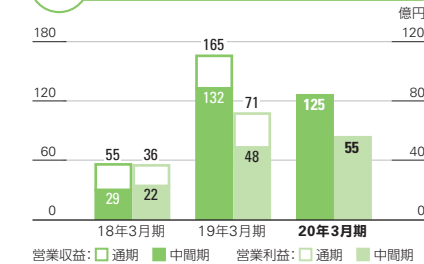
デリバリー事業



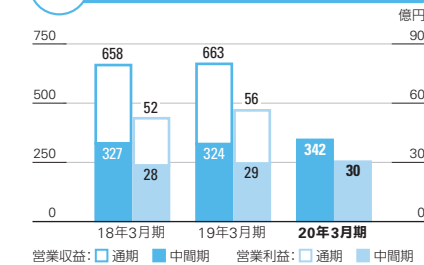
ロジスティクス事業



不動産事業



その他の事業





# 進化するSAGAWAのロジスティクス

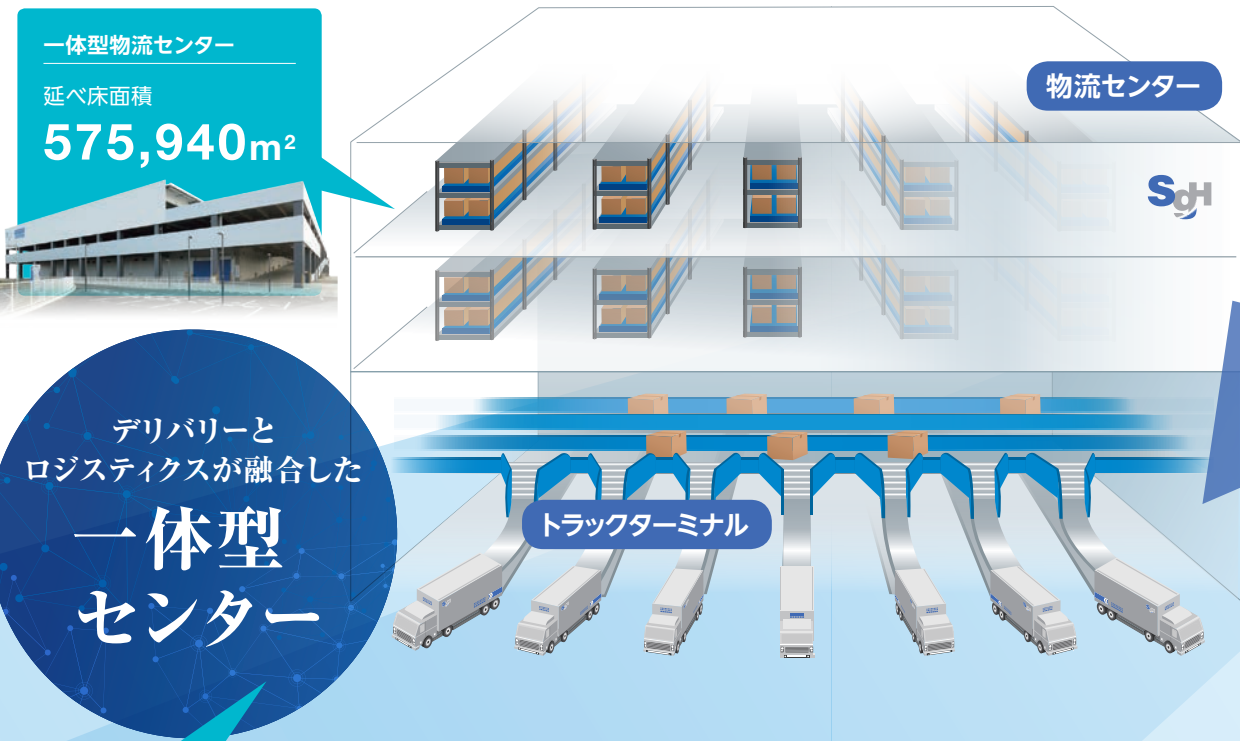
複雑さを増す流通に柔軟に対応する

## 一体型物流センター

SGホールディングスグループが全国32か所に展開する一体型物流センターは、1階にトラックターミナル、上層階に倉庫及び作業区画を配置し、デリバリーとロジスティクスが有機的に結合した総合物流施設です。

生活環境や消費者ニーズが多様化する現代において流通は複雑化し、物流は様々な販売チャネルへの対応が求められます。SAGAWAのロジスティクスは、倉庫と作業スペースを佐川急便に直結することで、あらゆる販売チャネルに対応し、お客さまごとに異なる入荷や出荷、流通加工業務に対し柔軟な対応で貢献します。

「GOAL®」に代表されるオーダーメイドソリューションを提供してきた一体型物流センターに、最先端テクノロジーを活用したプラットフォームが新たに加わり、SAGAWAのロジスティクスは更に進化します。



多様化・複雑化するニーズ



デリバリーとロジスティクスが融合した  
**一体型センター**

### お客さまに提供する価値

マルチチャネルに対応

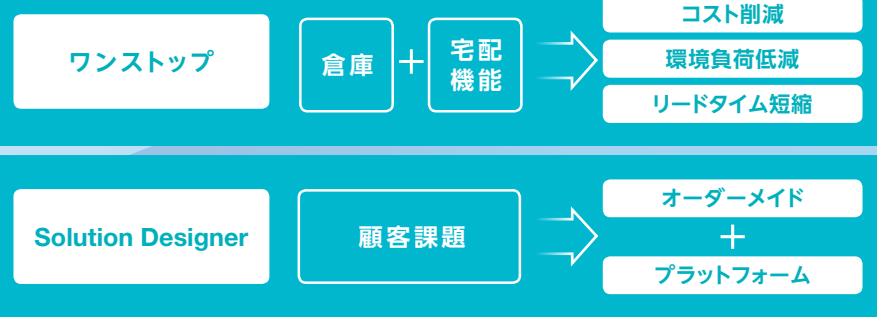
佐川急便の輸送ネットワークに直結することで、お客さまの販売チャネル（eコマース、ショッピングモール、百貨店、

サプライチェーンの高度化

ワンストップのロジスティクスでフレキシブルな入出荷を実現し、お客さまのサプライチェーンを高度化

とで、お客さまの販売チャネル（アウトレット等）に対応

ルな入出荷を実現し、



**GOAL®**  
先進的ロジスティクスプロジェクトチーム

- 全国約200名体制
- エリア別30チーム
- マーケティング7チーム

**Logistics Technology**  
最先端テクノロジー

自動搬送ロボット「EVE」

入荷商品は保管場所へ自動搬送し、出荷される商品は出荷場所へ自動搬送する

ロボットストレージシステム「オートストア」

高い保管効率を誇る自動倉庫。翌日の出荷に備えて夜間に無人で在庫最適化を行う